「天才ルーシーの計算ちがい」　ステイシー・マカナルティ

雷に打たれ、数学の天才になってしまったルーシー。飛び級で大学にも行けることになった 12 歳のある日、おばあちゃんはルーシーに、「1 年間中学校に通う」「友だちを 1 人作る」「数学以外の本を読む」などの課題を出して…。

「徳治郎とボク」　花形　みつる

ボクのお祖父ちゃんの名前は徳治郎。一度決めたルーティーンは、正月だろうがなんだろうが変えない頑固者。そんなお祖父ちゃんのガキ大将だったころの話を聞くうちに、ボクは子どものお祖父ちゃんが大好きになっていき…。

「長浜高校水族館部！」　令丈　ヒロ子

愛媛県立長浜高等学校には「水族館部」があり、生徒が水族館を運営している。生き物の命をあずかるこの部では、思いもかけないことがつぎつぎ起きて…。実在の部を舞台に描くドキュメント小説。

「ぼくにだけ見えるジェシカ」　アンドリュー・ノリス

ファッションに興味を持ち、学校で孤立している男の子・フランシス。ある寒い冬の日、校庭のベンチにいると、ノースリーブの女の子が現われて…。幽霊の少女との友情を通して変わってゆく少年たちの姿を描く、心にしみる物語。

「ぼくの帰る場所」　S.E.デュラント

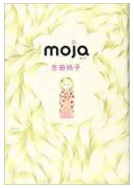
11 歳の男子 AJ が他の子たちと違うところは、両親に学習障害があること。両親は、お金や書類などが処理できないのだ。AJ に走る喜びを教えてくれたおじいちゃんが、常に家族を支えてくれていたが、突然亡くなり…。

「星くずクライミング」　樫崎　茜

小学 4 年生でスポーツクライミングに出会い、練習を重ねてきた中学 1 年生のあかり。だがスランプに陥り、やめようと考えていた。そんなあかりが、目の不自由な人たちのスポーツクライミング、パラクライミングを知って…。

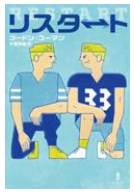
「みかん、好き？」　魚住　直子

拓海の前に突然あらわれた、風変わりな女の子・ひなた。拓海の祖父が作るみかんに感動して東京から瀬戸内海の島までやってきたという。ひなたと祖父はどんどん仲良くなり、一緒にみかんを育てることに…。甘酸っぱい青春小説。



「moja」　吉田　桃子

毛深いのを見られるのも嫌だし、それを剃っているせいでついたキズも見られたくない-。毛深いことをコンプレックスに感じている中 2 の理沙が本当の自分に出会うまでの、ひと夏の青春を描く。



「リスタート」　ゴードン・コーマン

おれはチェース・アンブローズ、13 歳。夏休みに屋根から落ちて記憶を失った。おれはアメフトのスター選手だったらしい。しかし、どうやらそれ以上にとんでもないワルガキだったみたいで…。マイナスからの自分探しの物語。

小説以外

「食べるとはどういうことか」　藤原　辰史

「食べること」を考えることで、「人間とはなにか」が見えてくる。先生と中高生による白熱の「食と農の哲学」ゼミナール。2018 年 3 月開催の座談会「藤原辰史先生と語る「食べること」「生きること」」の内容を元に書籍化。

「クマムシ調査隊、南極をいく！」　鈴木　忠

南極クマムシ、コケ坊主、昭和基地、ジェームズ・マレー…。大学でクマムシを研究する生物学者が南極観測隊に参加。そこで体験した極地の自然と観測隊の日常を、ユーモアあふれる文体でつづる。貴重な写真も掲載。

ことば蔵 HP より